

<b>Course number</b>	U-LAS70 10001 SJ50				
<b>Course title (and course title in English)</b>	ILASセミナー：土木技術の安全・安心と法工学入門 ILAS Seminar :Safety and Security of Civil Engineering Technology and Introduction to Forensic Engineering	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Engineering Professor,SUGIURA KUNITOMO		
<b>Group</b>	Seminars in Liberal Arts and Sciences	<b>Number of credits</b>	2	<b>Number of weekly time blocks</b>	1
<b>Class style</b>	seminar (Face-to-face course)	<b>Year/semesters</b>	2024・First semester	<b>Quota (Freshman)</b>	10 (10)
<b>Target year</b>	1st year students	<b>Eligible students</b>	For all majors	<b>Days and periods</b>	Mon.5
<b>Classroom</b>	(Main Campus)			<b>Language of instruction</b>	Japanese
<b>Keyword</b>	技術 / 歴史 / 事故 / 調査 / 法工学				
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
<p>社会経済活動の発展，人民の生活の質向上に向けて膨大な量の社会基盤施設が整備され，ストックされてきた．社会基盤施設の設計・製作・架設・維持管理作業においては，絶え間ない「技術の質保証・持続性」，「事故（災害）調査」，「新技術の受容性とリスク」に関して検討してきた歴史がある．今後も安心・安全な暮らしを確保するためには，総合的な技術に基づく国造りを目指す必要があり，工業技術を専門とする研究者・実務者のみならず行政・経済の専門家あるいは法曹実務家との協働作業，すなわち『法工学』が重要である．本授業では，専門分野の横断的な考察を行う入門ゼミである．</p> <p>授業では，</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)道路・鉄道，電気・水道，治山・治水などに関連した土木技術の基礎的な知識を学ぶ．</li> <li>(2)様々な時期の事故・災害を比較し，工業技術と暮らしの安全・安心を考える．</li> <li>(3)京大近くの身近な社会インフラの安全・安心について検証を行う．</li> <li>(4)受講生それぞれが対象を選び，日常に潜む危険を調査し，独自のハザードマップなどを作成し発表を行う．</li> </ol> <p>技術史に基づいた社会インフラの在り方，この授業を通じて，安全な日常を過ごすための自助・共助・公助などの社会形成の重要性を学んで欲しい．</p>					
<b>[Course objectives]</b>					
現実社会の中で，生活を支える技術を見出す観察眼と好奇心を涵養する．利用できる情報を収集し考察を深めることで，自主的に課題に取り組む能力を養う．					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
第1回 授業の概要説明 第2回 土木技術の概論（その1：道路・鉄道・電気・水道などのライフライン） 第3回 土木技術の概論（その2：都市計画・国土計画など） 第4回 構造物の技術史 第5回 構造物の事故と原因，および法工学 第6回 （実内実験）構造物を構成する材料を理解する					
Continue to ILASセミナー：土木技術の安全・安心と法工学入門(2)					

ILASセミナー : 土木技術の安全・安心と法工学入門(2)

- 第7回 (実内実験) 建造物の応答を理解する  
第8回 歴史的建造物の保全の現状  
第9回 京都市内の社会インフラの現地調査(その1)  
第10回 京都市内の社会インフラの現地調査(その2)  
第11回 社会インフラを通して自助・共助・公助を考える  
第12回 成果発表会(その1)  
第13回 成果発表会(その2)  
第14回 総括  
第15回 フィードバック

**[Course requirements]**

None

**[Evaluation methods and policy]**

期末レポート30% , 平常点(出席状況, 発表, コメントペーパー)70%

**[Textbooks]**

Not used

**[References, etc.]**

(References, etc.)

Introduced during class

**[Study outside of class (preparation and review)]**

各自で対象を選び, 京都大学以外で収集した情報をもとにした発表をするので, これらの準備作業が予習に相当する. 発表の時に出的意見をもとに, さらに分析や調査を深めて期末レポートとして作成することが復習となる.

**[Other information (office hours, etc.)]**

京都市内のフィールドワーク・室内実験を予定しているので, 学生教育研究災害傷害保険などの傷害保険へ加入すること. またフィールドワーク場所へ移動する費用(交通費)などは個人負担になります.